

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：4・5歳児クラス)

モニカ人形町園

Monica

テーマ

木の可能性

設定理由

公園で長い枝や太い枝等、見つけた枝の特徴を嬉しそうに保育者に伝えたり、集めて楽しんだりする姿があった。保育室でも枝を使って構成遊びや製作遊びができるようコーナーを設定したことで、枝を使った探究にも興味を持って参加する姿があった。

対象クラス

4・5歳児クラス・10名

活動のねらい

活動を通して木への興味を高め、親しみを持つ。

問い

「どう見える」
「どう感じた」
「どうして違うのかな」
「どうしてこう見えるの」

活動期間

令和7年6月～8月

活動回数

計6回

木も生きてるの？

子ども達から生まれた一つの疑問

人と同じように生きているのか
息をしているのか

人と木の息をそれぞれ袋に閉じ込めて
さらにじっくり観察をしました。



「袋が白くなった！」

「中に水がついてる。」

「ていうことは、木も息をしてるんだ！」

驚きで目を輝かせる子ども達。

そんな驚きや気づき、疑問に出会う瞬間
一つ一つを大切にしていきます。

「こっちとこっち違うよ。」

「じゃあこうすればいいんだ！」

「なんか木の匂いしない？」

「いい匂い！」



木の大きさと匂い



木と生活し、木と遊ぶ

そんな中で出会った木の「大きさ」と「匂い」

木への興味はどんどん深まります

これも木だよ！

～ “木から出来ている物” はどんなものがあるかな？～



紙を入れている箱も！

見て！この棚も木だよ！

他にもこんなものを見つけたよ。

これは木からできたもの？



木からできている物が身近に沢山あったことに気がきました。中には木で作られていない物もありましたが、大人が答えを言うてしまうのではなく、「じゃあ調べてみよう！」と新たな発見や興味に繋がるような声掛けをしています。

外で見かける木がどうやって身近な紙や棚などになっているのか、ずっと疑問だった子ども達。だからこそ皆真剣な表情で動画を見ていました。紙の作られ方が分ると、「じゃあ色のついた紙は絵の具と木を混ぜてるのかな？」とさらに疑問が広がっています。子ども達の興味や疑問を持った瞬間を大切にしながら探求を進めていきます。

子どもの疑問から

『木が紙になるまでの動画』

『木が木材に加工される動画』を見ました。

白くなった！

どんどん四角になってる。



活動内容

《6月》最初に木のビンゴゲームを入れることで楽しみながら木の模様や幹の太さの違いに気付いていた。公園で見つけた枝を園に持ち帰りマイクロスコープで観察すると、枝のキズや色の違いに注目していた。木への興味が高まったところで保育室に木材のや枝を使った構成遊びコーナーを設けた。木材の長さや形のわずかな違いに気付き、バランスを考えながら作ることを楽しんでいた。木材の重さ比べでは、計量器を使って重さを視覚化することで見た目の大きさと重さが比例しないことに気付いた。

《7月》子ども達が木をどのように考えているのかサークルタイムで話す機会を設けた。そこで木が活着しているのかという問いが生まれ、保育室にある観葉植物に透明のビニール袋を被せて観察した。結果、子ども達が袋に息を吹きかけた時と同じように植物の袋も曇り、植物が呼吸をしていることに気付いた。他にも、木が紙に加工される動画を見ると子ども自身が「これも木だよ」と保育室の家具や玩具から木を見つけようとする姿が見られた。

《8月》公園でふろった枝を使って物語を考え、グループごとに違う物語が生まれ、枝や木の皮を様々な物や人に見立ててイメージ豊かに楽しんでいた。皆でひとつの木を作る際には、木からできている素材のみを使用し、根っこや幹をどう表現したらよいか考え、工夫する姿が見られた。

〈環境構成〉

子どもが気付いたことを保育者や友達と伝え合ったり一緒に考えたりできるよう3グループに分けて実施した。木材と照明のみ等、シンプルな環境を作った。また素材は枝、木の削りカス、加工された木材を用意し、素材によって性質が違うことに気付けるようにした。木材や枝を使った構成遊びコーナーを設定し、普段の遊びの中からも木を取り入れることで木に親しみを感じられるようにした。

使用物

木のビンゴの紙 | マイクロスコープ | 段ボール | 画用紙 | 計量器 | コルク | 加工された木材
削りかす | 木の図鑑 | 模造紙 | 水性ペン | パソコン | プロジェクター | 透明の袋 | パキラ
枝 | 葉 | 木の皮 | テーブル | 椅子

テーマ：木の可能性

全体の振り返り

木のビンゴから始めたことで楽しみながら木の興味を高めることができた。子ども達の様子に応じて木材を使った構成遊びを設定したことで、遊びの中で木の香りや温もりを感じ、親しみに繋がった。グループごとの活動が多かった為、それぞれのグループで気付いたことを子ども会議にて共有する場を設けた。職員間では声掛けや環境についての反省を行い、次回の探究に活かせるようにした。探究後も内容を保護者と子どもで振り返れるようドキュメンテーションを掲示した。活動中の問いかけはタイミングによって活動への関心が薄まってしまう場面があった為、子ども達の様子を見ながら問いかけることが大切だと気づいた。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ人形町園

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町3-4-8
アイビーコート日本橋人形町
TEL:03-6264-9244
FAX:03-6264-9245